

国際ロータリー第2500地区第6分區

# 帯広東ロータリークラブ会報



ROTARY  
SERVING  
HUMANITY

2016-2017年度  
帯広東ロータリークラブ

会 長 高 田 進  
幹 事 石 川 博 機  
メディア委員長 上野 敏 郎

「活：かつ」

## 第1534回例会

平成28年9月13日(火) 於 ホテル日航ノースランド帯広

■創 立：1984年6月15日 ■認 証：1984年6月18日 ■例 会：毎週火曜日 12:30~13:30  
■事務局：帯広市西3条南9丁目 帯広経済センタービル4F Tel.0155-25-7347 ■会 場：ホテル日航ノースランド帯広

S.Mori



2016-2017年度 国際ロータリーテーマ  
**【人類に奉仕するロータリー】**  
2016-2017年度国際ロータリー会長  
ジョーンF・ジャーム

ガバナーテーマ  
**【ロータリーの明日の為に、積極的に行動しよう】**  
国際ロータリー第2500地区 ガバナー  
駒 形 曙 美

月間テーマ  
**【基本的教育と識学率向上月間】**  
**【ロータリーの友月間】**

- ◎起 立 加藤雄樹 S A A
- ◎友情の握手 加藤雄樹 S A A
- ◎点 鐘 鎌田 勉 副会長
- ◎開 会 宣 言 加藤雄樹 S A A
- ◎国 家 斉 唱
- ◎ロータリーソング 「奉仕の理想」
- ◎ゲスト紹介 鎌田 勉 副会長
  - 帯広市広報広聴課係長 高橋知恵美 様
  - 帯広要約筆記サークルたんぽぽ 3名



◎会 食

### 会長挨拶

鎌田 勉 副会長



皆さん、こんにちは。台風一過、道内は珍しく大きな被害をこうむりました。北クラブ会長から電話があり、理事会で被災者への見舞いを何か考えたらどうか、との、事になり最終的に市内5クラブで協力してはどうか、実行するかどうか、するのであれば、どのように、進めるか、募金手段、窓口等、相談がありました。今年は東クラブが幹事

クラブの為、顔を立てて、最初に電話が来たのかもしれませんが、当クラブ理事会でも参加する事になった様なので、宜しくお願いします。出来れば、金額の多寡より、より多くの会員の参加が頂ければと思います。

本日、ゲストは、市広報課、高橋係長様です。要約筆記サークルの「たんぽぽ」の皆さまにもご協力をいただいたの例会となりました。ありがとうございました。私も長年、町内会の役員をしてきましたが、その割には、広報の配布だけで、状況とか、実態、どのように作成、浸透しているのか、そのバックボーンは、まったく知りません。今日は良い機会なのですが、出席できず、大変申し訳ありません。

病状は順調に回復しており、今月中には退院できると思います。入院していると、一日は結構長く、感じますが、過ぎた時間は短く感じます。もう、10日(とうか)も経ったのかという感じです。多分、あまり人に会わず、会話や行動が無いと、日常の記憶が薄く、時間の経過が速く感じるのではないかと思います。とにかく、テレビ、新聞、書籍、ネットとすべてが受身で、参加感覚がありません。ふだんから、時間の使い方を有意義に、使う事がいかに大事かを感じます。

以上、乱文になりましたが、会長挨拶とさせていただきます。

高田 進 代読

### ニコニコ献金

親睦活動委員会 大池梨華 委員

- 鎌田副会長 今回2回目の会長挨拶の代読です。少しはなれました。
- 金尾会員 久しぶりの例会出席です。
- 曾根会員 P Gの写真ありがとうございます。合わせて結婚記念日のお祝いありがとうございます。
- 上野会員 今日はメディア委員会担当の例会です。伝えることの大切さ難しさを共有する例会になればと思いながらニコニコします。
- 加藤(雄)会員 函館まで車で行って来ました。清水地区の法面にブルーシートが目立ちましたが高速道路はスムーズに流れていました。
- 池田会員 ライラセミナー無事終わりました。



## 出席報告

出席・プログラム委員会 宮前 克則 委員長

回数	日付	会員数	計算に用いる 会員数	ホームクラブ 出席者	メイクアップ	欠席数	出席率
1529	08/02	39	35	25	1		74.3
1530	08/09	39	35	28	0		80.0
1531	08/23	39	34	26	0		76.5
1532	08/28	39	29	18	2		69.0
8月計		156	133	97	3		75.2

## プログラム

メディア委員会 上野敏郎 委員長

### 【ゲスト卓話】

#### テーマ：【「広報おびひろ」の取り組みについて】

帯広市広報広聴課 係長 高橋知恵美 様

私の部署の紹介をしたいと思います。広報帯広を発行しております。広報の部分と広聴の部分がありまして広聴の部分では主に市民の方からのご意見・ご要望などを承る部署として、皆様方がイメージされているものだとすると市長への手紙ですとか要望など受けている部署となっています。



本日はその中でも広報誌に関する部分でお話をさせて頂きたいと思っております。

広報誌といいますのは、行政が市民の皆さんに市の制度ですとか手続きなどをお知らせする大切な媒体です。手にとって頂いて読んで頂く方がいなければその意味がないのかなと思っています。そこで、私たち行政がどんな視点で広報誌を作っているのかを皆さんに知って頂く事で、より広報誌を身近に感じて頂けたらなと思っております。

本日の進め方なんですけど、広報帯広の簡単な紹介をさせて頂きます。そのあと読んでもらえる誌面作りとしましてポイントを絞って皆様にご紹介できたらなと思っておりますので宜しくお願い致します。

毎月1回1日が発行日となっております。部数は現在7万7千部を制作しております。規格は現在はタブロイド判といたしまして新聞のような形態をとらせて頂いております。一部カラーを使用しています。ページ数につきましては平均月16ページ位であります。

タブロイド判に変更したのが平成20年の6月からです。もともとA4サイズでした。これをタブロイド判に変更した理由というのは、紙面が大きくなるのでこれによって記事に合わせたレイアウトは幅が広がり見やすくなったという経過があります。この広報帯広は昭和25年から発行しております。現在の9月号で1108号をおかげさまで迎えております。この他、広報誌の中では視覚がいっそう向けた点字広報と声の広報誌、こちらは音源がCD媒体なんですけどこちら発行しております希望者に配布しております。

次に広報誌の構成なんですけど、前半の部分は我々一般記事と呼んでいるのですが3分の1ページから1ページ位の枠を使いまして、市の事業や制度などを皆さまにとって重要な事業の内容を紹介しています。前半の一般記事では大きく紙面を割いてご紹介しております。次に後半の部分です。8ページ位からお知らせの部分になっ

ておりまして、市の各種イベントの案内、講座や教室の募集といった市民参加型のコーナーです。こういったものを健康福祉ですとかスポーツなどのジャンルに分けて紹介しております。次にみんなの広場というコーナーが14ページ位からあるんですけど、こちらは市以外からの地域の方、サークルの方、団体の方、そういった方から市民の皆様にお知らせしたい内容をお伝えしているコーナーになっています。その他に各種コーナー物があります。故郷の自然や歴史等を紹介しているコーナーがあります。

私の方から1番オススメしたい一番最後のページになるんですけど、カラーページでカメラポのコーナーです。この記事は、毎月広報広聴課の職員が市の様々な事業取材しております、私も書いている部分になるのですが毎月だいたい3つ程度ピックアップしてご紹介させて頂いております。

次に広報誌の配布方法についてご説明します。現在帯広市では市から業者に委託を行っております、町内会の広報委員の皆さんに毎月20～23日頃に配達を行っております。その後、各班長を通じて町内の各家にお届けしているという流れをとっております。現在町内会未加入世帯の増加ですとか、町内会の担い手が高齢化しているという実体がございます、未加入世帯への配布率が低下しております。こちらが今広報広聴課が抱える大きな課題であります。広報誌が手に入らない方にはどのようにしてお届けするかということなのですが、帯広市では現在、市有施設の他、大手市内スーパー、コンビニ全店舗に広報誌を設置させて頂いております。転入者の方、若い世代の方等に広報誌を手にとって頂きやすい環境というのを作っております。その他に市のホームページに掲載しております、こういった手段を用意して出来るだけ見て頂ける機会を増やしているところです。

次に広報誌の取り組みなのですが、現在の帯広市の広報誌の作り方は大きく写真を載せる形を取っています。カラー図面を活かすということもあるのですが、やはり文字ばかりが並んでしまうと堅苦しいイメージがありまして、なかなか写真は見るんですけど本文に入っていけないという印象がもたれるのかなと思っています。こういったインパクトのある写真を1枚ドーンと使いまして、印象をもたせるという見せ方の工夫をしております。また、写真の他にイメージ図等も積極的に利用しています。

ポイントの2つ目、魅力的な見出し。先ほどの表紙の所に見出しが書いていたのですが、見出しは「極力長すぎずリズム良く」これを合い言葉にしております。人は見出ししか実は見ないと広報広聴課に来たときに先輩に言われました。見出しを見ただけで読者が求めている内容が一目で分かるように作る。こちらの方を心掛けています。この他に伝えるために工夫している事としては、全体のデザインを1ページからめくっていったときに、タイトルが同じような位置にあったり目があっちにいたりこっちにいたりしないよう、見づらくない作り方というのをしております。またタイトル等に絵文字等を利用してしております。

ポイントの3つ目、コーナーものです。ここはですね、前半の堅い市のご案内とはちょっと違って変わって、読者が楽しめてためになるこういったコーナー作りをしているところです。現在広報誌の方で掲載しているもの

としましては「ZOOレター」動物の様子やユニークな場面などを写真付で紹介しているもの、それから「安心安全メモ」といまして交通事故や犯罪の未然防止をするためにただイラストだけでなく、ウサギやクマが着ぐるみを着てそのコーナーを紹介するというような、遊び心あるコーナーになっています。それから「図書館のオススメ」ですね、これは人気の図書などを紹介しています。あと1つご紹介したかったのが、実は今年度から帯広市手話言語条例制定したことを受けまして、このコーナーの中で「ワンポイント手話講座」というコーナーを作っております。

次にポイントの4つ目で企画特集のご紹介をしたいと思います。この企画特集なんですけれども、実は広報誌の誌面が限られていますので、年に2回もしくは3回程度しか特集として組むことができませんので、ここを一般記事からの差別化を図っておりまして、1つのテーマを深く掘り下げて皆さんにお伝えしているものになります。問題点や課題を市民と一緒に考えるきっかけ、問題提起ですね、こういった特集内容のようなものも広報誌の中ではやっております。この中では帯広市からの情報をお伝えするだけではなくて、関係する市民ですとか職員の方にドンドン取材をしまして、具体的に広報誌を読む市民がどういったらテーマを身近に感じて頂けるかなというところに視点を置いて作っております。ページ数としますと、表紙から3ページ程度特集としては組みますので、かなり文書として読むだけではボリュームがあるのです。なので、出来るだけそういった市民目線のテーマになるように心掛けています。

過去の紙面を紹介させていただきます。今年の2月に広報帯広で特集を組ませて頂いた表紙になります。この時の特集の内容は「認知症を考える」。タイトルは「誰もが安心して暮らせるまちへ」とさせて頂きました。表紙の写真も認知症だからといって重たく感じてはほしくはなかったので、人と人が協力しあっているよというイメージに職員で考えて苦労しながらとりました。

この表紙の下に記事が細かく書いてある横に「私たちがサポートしています」と書いてある所があるのですが、地域包括支援センターの職員さんに活動の報告などを伺いました。そのページの中で今日ご紹介したかったのが、第八中学校の生徒さんが地域包括支援センターから認知症サポーター養成講座を受講されたので広報広聴課でその現場に取材に行きまして、できれば受講生の生の声が聞きたい、それを記事にしたいと思ひまして学校に掛け合ったり生徒先生に掛け合せてこの記事を書かせて頂きました。生徒さんも最初は緊張ぎみだったのですが、あの手この手で打ち解けて頂き、にっこり笑った写真を撮ることができました。こういった形で取材にも力を入れております。

それと、広報紙面の中ではできるだけ行政用語を多用しないようにしてまして、出来るだけ日常に使用する優しい言葉に置き換えてたりですとか、目安としては中学生が読んで理解できる程度という文書を解りやすい原稿作りということで行っております。

広報帯広の制作の流れというのもせっかくの機会ですのでご紹介させていただきます。広報帯広は現在デザインは委託をしております。事務を省略可するという意味合いもあるのですが、民間事業者のデザインのノウハウを

活用することで、より読んでもらえる紙面にさせて頂いております。なかなか広報広聴課職員もプロではないものですから、そういったデザインの面では民間の活力を使っております。また広報が出来上がるまでには、制作委託業者とあらかじめ広報広聴課が用意した原稿や写真等をもとにどんなデザインにしていけるか、どんなレイアウトにしていけるかを早い段階でがっちり打ち合わせをさせて頂いております。なので双方のイメージが違ってしまうような形で打ち合わせをして校正は3回行って、最後に色校といひまして専門用語ではあるのですが、紙面の色ですとか写真を中心に確認をする作業まで入れますと4回繰り返しております。この間、各文書をどういったら分かりやすい伝え方になるかなと何度も推敲して作成しています。

残りの時間は広報誌とは関係は無いのですが、帯広市が行っているその他の取り組みをご紹介させていただきます。

1個目が広報帯広の広告です。現在広報掲載の考え方ということで広報誌のレイアウトや内容のバランスに影響しない範囲で帯広市では広告掲載を行っております。

2個目が是非皆さんにご紹介したい物がありましたので「おびひろ暮らしと防災ガイド」という冊子なのですが、こちらは行政情報を市民に伝えるための媒体として、広報誌以外で広報広聴課が取り組んでいるものであります。こちらは官民共同発行事業という方法を現在とっておりまして発行方法の見直しを行った事業です。この冊子は費用をすべて広告の費用で賄って行政負担0円で発行する新たな手法です。今回この事業を見直したことで、この冊子を今年の10月に全戸配布する予定です。

簡単な説明となってしまいましたが、広報帯広の取り組みについてご紹介をさせて頂きました。今後ともよりよい紙面作りに向けまして、皆様からのご意見なども沢山承っておりますので引き続きよろしくお願ひいたします。本日はご清聴ありがとうございました。



◎閉会宣言  
◎点 鐘

加藤 雄樹 S A A  
鎌田 勉 副会長

### 次週プログラム

国際奉仕・ロータリー財団委員会

9月20日(火) 「会員卓話」  
【ロータリー財団の難解用語の解説】  
西田重人委員長

# 帯広東ロータリークラブギャラリー



森定晴会員によるドローン撮影



森定晴会員によるドローン撮影